

# 南丹教育局NEWS

## 環境・食育パートナーズクール事業

南丹教育局では、中学校・高等学校が連携し、地域の教育資源を活かした取組を通して明日の「京都丹波」を担う人づくりの推進を図るため、「環境・食育校種間連携パートナーズクール事業」を実施しています。

中学生は身近な先輩から直接学ぶことで自分の将来に対する興味や関心を持ち、また、高校生は中学生への指導を通して日々の学習に対する自信や誇りを持つなど、校種の違いを越えた連携を通して、「つながる学び」に取り組んでいます。



### 各中学校の紹介・6次産業化について

令和4年10月14日(金)、府立須知高等学校において、「令和4年度環境・食育校種間連携パートナーズクール事業」を実施しました。「6次産業化から地域の未来を考える」をテーマに、京丹波町の瑞穂中学校・和知中学校の1年生と須知高等学校食品科学科の3年生が連携して取り組みました。

初めに各校の中学生が自分の学校を紹介し、交流を図りました。その後須知高校教員から、農林水産物の生産(1次)、加工(2次)、流通・販売(3次)を一体化する「第6次産業」についてや、須知高校における「第6次産業化の取組」について説明がありました。中学生は熱心にメモをとりながら、講義を受けました。

その後、高校生と中学生は「穀物加工」、「園芸加工」、「乳肉加工」、「公園管理」の4つのグループに分かれ、高校で採れた食材等を活用して新たな付加価値を生み出す取組について体験学習を行いました。



### 穀物加工：石窯ピザ作り体験



「穀物加工」グループでは、高校で栽培された小麦やトマトを使ったピザ作りを通して、農産物の活用方法について学びました。

小麦は全粒粉に製粉され、トマトは濃厚なトマトソースに加工されており、それらを合わせてピザにすることで、新たな価値が生まれます。

まず高校生が生地をこねるところから石窯でピザを焼くまでの一連の工程のお手本を見せ、その後中学生が、高校生の指導を受けながらピザ作りを体験し、試食しました。



南丹教育局では、南丹地域の市町教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の取組を支援するとともに、地域ならではの教育振興に取り組んでいます。

ぜひ、ホームページをご覧ください！！

南丹教育局





## 園芸加工：ジャム作り体験



「園芸加工」グループでは、高校で栽培された果実を使ったジャム作りを通して、農産物の活用方法について学びました。

須知高校では、形が悪い等の理由で販売できなかった果実を廃棄せず、冷凍保存してジャムに加工しています。

担当教員からジャムの定義やゲル化、作り方手順について説明を受けた後、各グループに分かれてぶどう、いちご、ブルーベリーのジャムを作りました。

混ぜ方や火加減、糖度の測定などを高校生からのアドバイスを受けながら行い、美味しいジャムを作ることができ、試食しました。



## 乳肉加工：チーズ作り体験



「乳肉加工」グループでは、チーズ作りを通して、乳製品がどのようにしてできるのか、その仕組みについて学びました。

須知高校には、牛乳からアイスクリーム、ヨーグルト・チーズに加工する本格的な設備が整っていて、製品は道の駅などで販売されています。

まず高校生がチーズについて説明をし、その後「モッツアレラチーズ」と「string cheese (裂けるタイプのチーズ)」の2種類を実演しました。

中学生は熱湯を入れたボールの中で、混ぜたり伸ばしたりを繰り返しながら形を整え、同じように2種類のチーズをつくり、出来上がったチーズを試食しました。



## 公園管理：森の散策とまき割り体験



「公園管理」グループでは、学校林の一部を散策しながら、森や自然の活用法について学びました。

須知高校には広大な学校林「ウィードの森」があり、私たちの生活に活用できる森林資源がたくさんあります。

散策をする中で樹齢の推測方法を学んだり、森林や竹林整備について説明を受けた後、間伐材の搬出を体験しました。

その後、斧でのまき割りに挑戦しました。狙ったところへ斧を振り下ろすことに苦戦しながらも、高校生から指導を受けて体験しました。



## 交流を終えて・・・



どのグループも初めはお互いに緊張している様子もありましたが、高校生の優しく丁寧な指導により次第に打ち解け、和やかな雰囲気の中取り組みました。

中学生は初めての作業に戸惑いながらも真剣に取り組んでいました。自分で実際に体験することによってたくさんの新発見がありました。高校生は教えることの難しさを感じながらも、中学生に優しく声かけをしていました。中学生からは「高校生が優しく教えてくれたので、楽しんで取り組むことができた。加工や管理の難しさを知ることができてよかった。」、高校生からは「自分たちの活動や、6次産業を知ってもらえてうれしい。」といった感想がありました。

普段は接する機会の少ない中学生と高校生との交流をとおして、新たな発見や気づきが生まれ、充実した一日となりました。